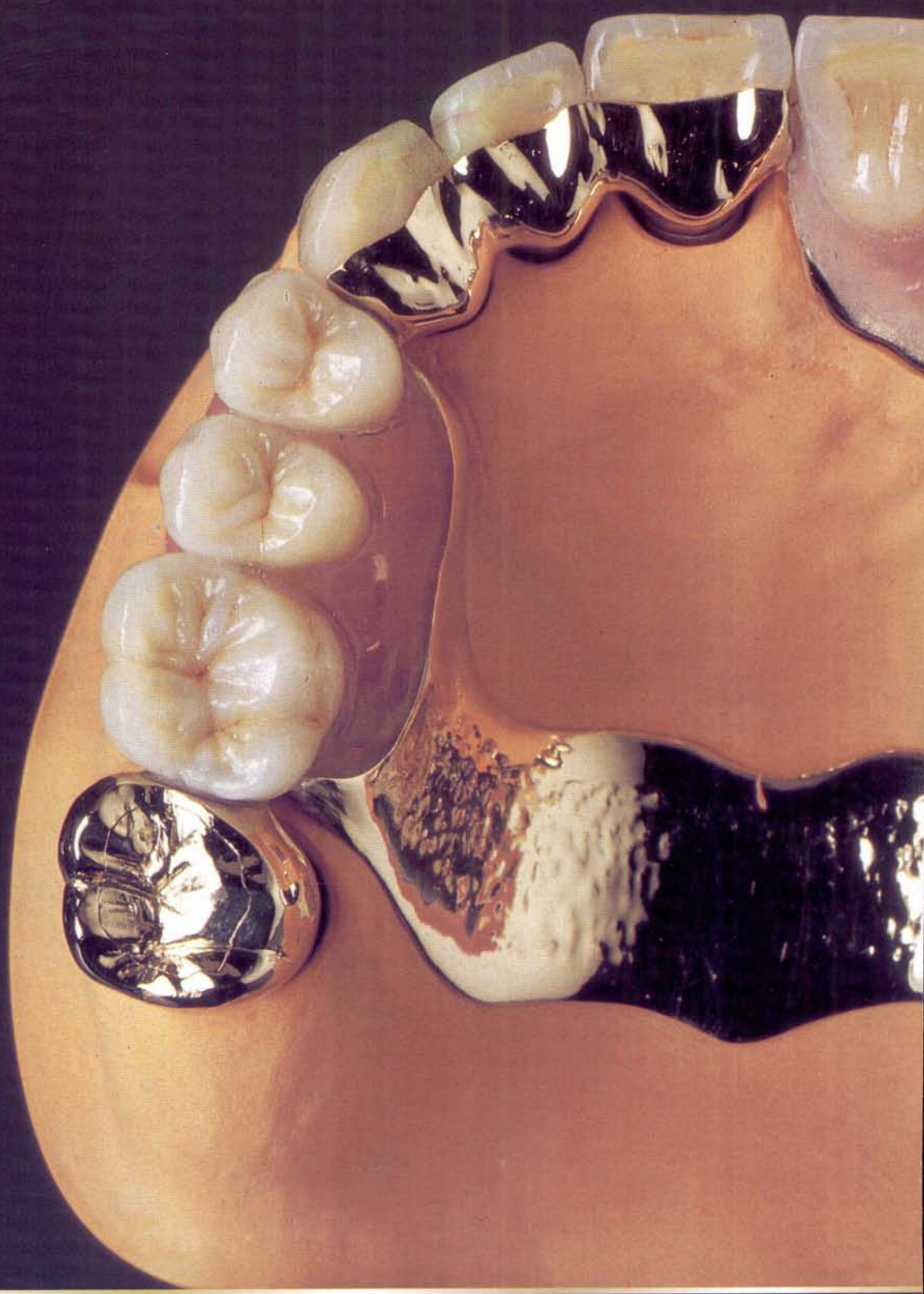
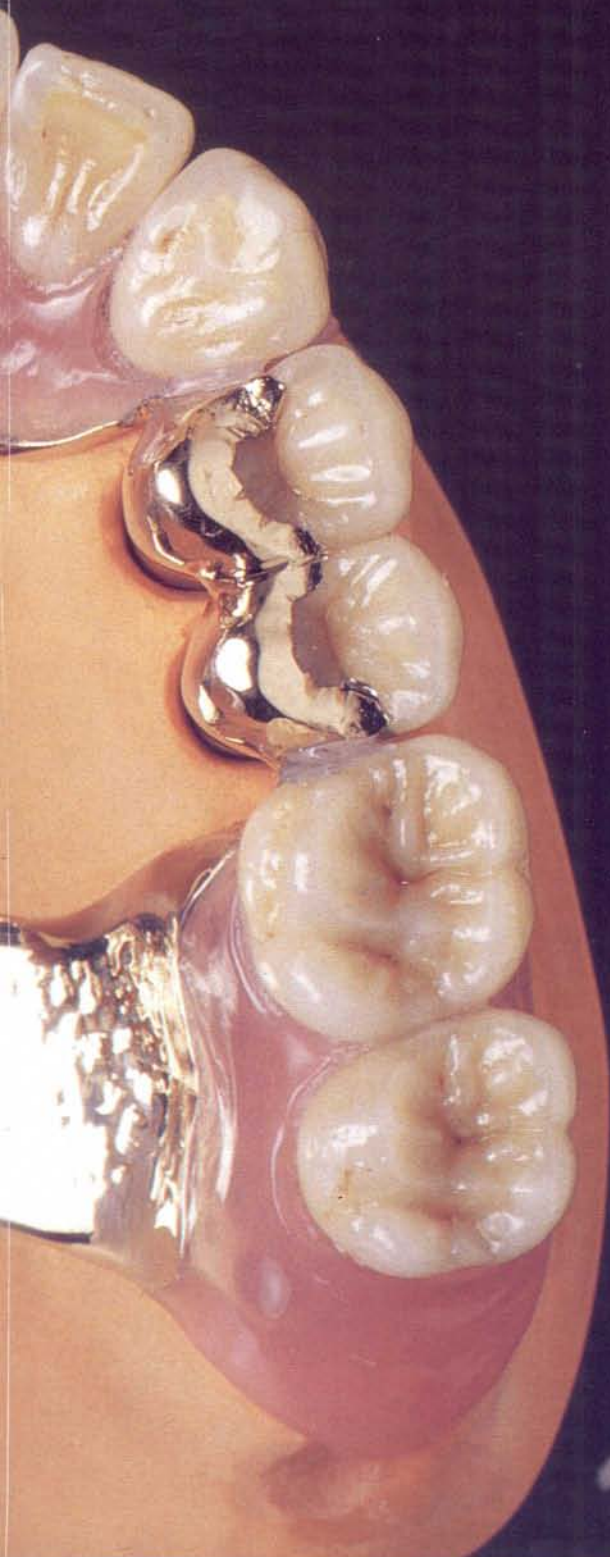


OPENING GRAPH

ドイツ・歯科技工士マスター試験課程におけるミリングの実際





ドイツの歯科技工士マイスター試験第一課程は、

- ① 5歯以上にわたるアタッチメントを装備するコンビネーション義歯
- ② アタッチメントまたはスクリューを装備する10歯以上のセラモメタルブリッジ
- ③ 上下全部床義歯
- ④ 矯正装置の4種類

の補綴物の製作によって構成されている。

この中で、①のコンビネーション義歯の製作においては、

- a. テレスコープ冠
- b. チャンネルショルダーアタッチメント*
- c. ドルッククノップアンカー
- d. リーゲルアタッチメント

の4種類のアタッチメントの中から維持装置を選択し、5歯以上にわたるミリングを施したコンビネーション義歯とすることが義務づけられている。

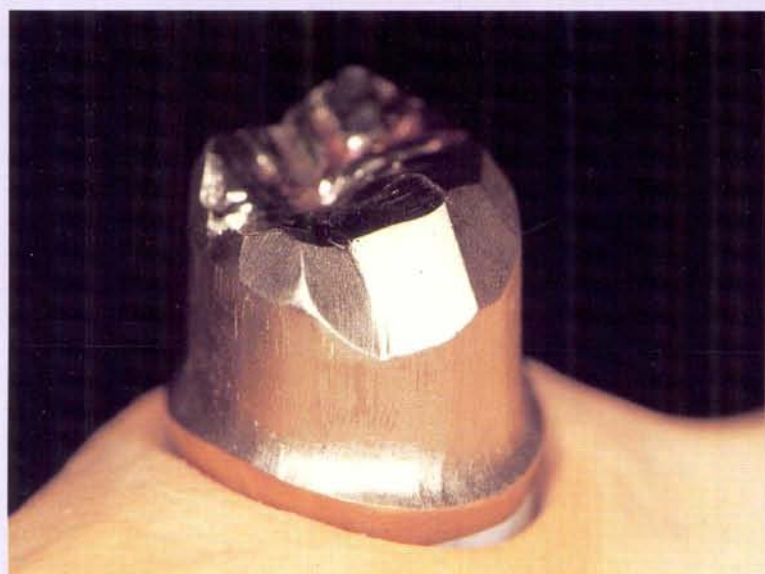
ここでは、筆者が歯科技工士マイスター試験受験時に実際に製作したコンビネーション義歯を紹介する。

(*161頁より関連論文を掲載)

筆者は、3 2 1にチャンネルショルダーアタッチメントを、2にリングテレスコープ冠を、4 5にT字型アタッチメント付チャンネルショルダーアタッチメントを施した、上顎コンビネーション義歯を設計した。

この義歯では、3 2 1には、3歯連続して固

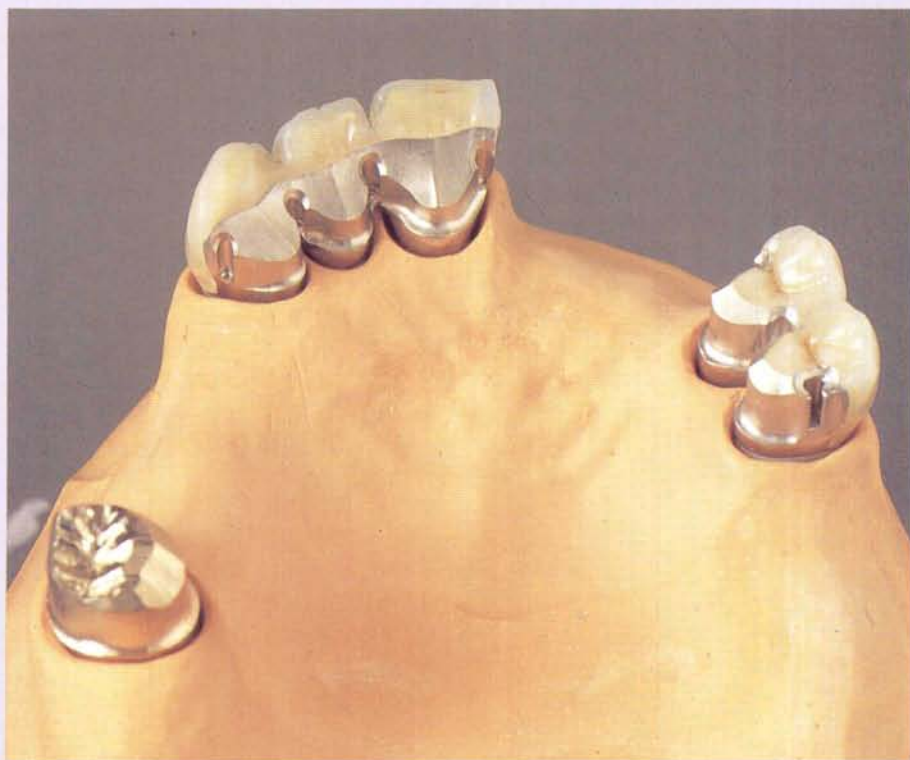
性的表現法を用いたセラモメタルクラウンを製作したため、1 2 3 およびその他全ての排列歯についても、セラモメタルクラウンを製作することによって、審美性と咬合機能における材料的要因の統一を図り、長期間の咬耗に対処することにした。

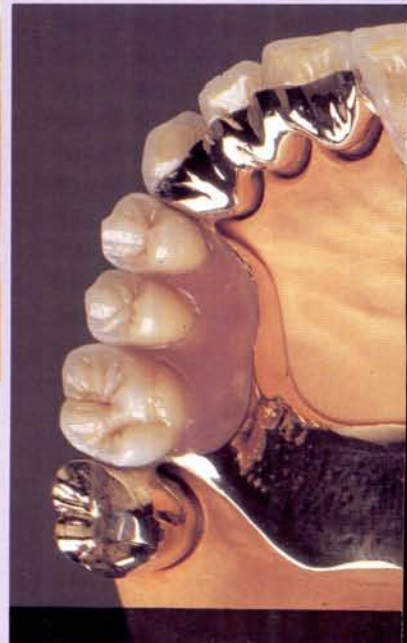
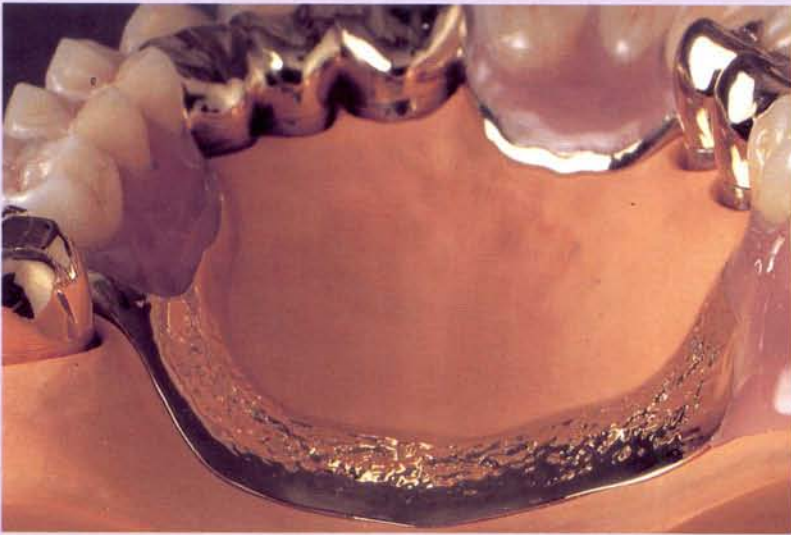


OPENING GRAPH

ドイツ・歯科技工士マスター試験課程におけるミリングの実際

なお、臨床的に考えると疑問が残るが、ミリング面には、試験ということで、鑄造精度（鑄造面の状態、鑄巣の有無など）を確認する目的で、つや出し研磨後、50 μ mのガラスビーズをサンドブラストしてある。





OPENING GRAPH

ドイツ・歯科技工士マスター試験課程におけるミリングの実際

